

『星が示したもの』 (要旨)
 聖書箇所：マタイの福音書 2章 1節～ 12節



【1】東方の博士たち

イエス様がお生まれになった時、遠く外国からやってきた人々がいました。「東方の博士たち」です。東方とは、アラビア、バビロン、ペルシャ、あるいは、エジプトのどこかと言われています¹。博士は、天体の動きを観察する学者でした²。彼らがいつものように星の動きを観察していると「ユダヤ人の王」誕生を示す星が昇ったことに気が付きます。それで礼拝をささげる旅に出たのでした(2:2)。

エルサレムのユダヤ人と全く異なった環境にいた東方の博士たち。両者が接触することになったのは、「ユダヤ人の王」の誕生によってでした。「ユダヤ人の王」の誕生など、一見ローカルな出来事に見えます。しかし博士たちはそれを、自分たちが礼拝をささげるべき方の誕生と捉えたのでした。

【2】星が示したもの

東方の博士たちが見た星は「ユダヤ人の王」を示しました。それでエルサレムまで旅をしました。エルサレムで、その場所が「ベツレヘム」だという聖書の預言を知らされました。聖書は、彼らがそこに向かう道中の様子を次のように記します。「かつて昇るのを見たあの星が、彼らの先に立って進み、ついに幼子のいるところまで来て、その上にとどまった。その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ」(マタイ 2:9~10)。「ユダヤ人の王」のところまで導かれたと確信したのでありましょう。この星はキリスト(救い主)誕生を知らせていたのでした。

博士たちが見た星は、ヘロデ王、祭司長、律法学者、そして、エルサレムの住民の頭上でも輝いていました。エルサレム中の人々は、聖書からキリストはベツレヘムで生まれることを聞

きました。しかし誰一人として博士たちと行動を共にする人はいませんでした。

【3】神の救いの「時」

暗やみに輝く星は、「ユダヤ人の王」として生まれ、「ご自分の民をその罪からお救いになる」(マタイ 1:21)お方の到来のしるしでした。ヘロデ王も、エルサレムの学者たちも、「ユダヤ人の王」がどこで生まれたかを知りました。しかし「礼拝」をささげることはありませんでした。一方で遠路を旅した博士たちが「ユダヤ人の王」を「ひれ伏して礼拝した」(2:11)のでした。

神は罪ある私たちを救うためにキリストをこの世に送って下さいました。今朝、私たちも聖書を通してその知らせを聞いています。その知らせを聞いた私たちがどのように応答するのは、実はそれぞれに委ねられているのです。

当時のエルサレムの住人は、「博士たちはタイミングが悪かった。よりによってあのヘロデの前で『ユダヤ人の王』と口にするなんて」と思ったことでしょう。自分たちが一番良いと思うタイミングに礼拝しようと思ったのかもしれない。しかしその後すぐにヨセフは主イエスを連れてエジプトへ逃れました(2:13)。

エルサレムの人たちにユダヤ人の王の誕生を知らせたのは「東方の博士たち」でした。そしてキリストの誕生を示したのは「星」でした。それらは、堅実なエルサレムの人々を不安に陥れるイレギュラーな出来事でした。しかし神様はキリスト誕生の知らせをそのような形で知らせたのです。

▷私たちはいつの間にか自分がふさわしいと考える「時」や「手段」でがんじがらめになっていないでしょうか。自分が神様のように「時」を知っているかのように錯覚してはいないでしょうか。私たちが自分の限界を知ることで、初めて神様の「時」を求め、そこに自分の歩みを合わせようとするのではないのでしょうか。

あなたのために生まれた「救い主」をあなたも今日という「時」にと心にお迎えすることができますように(参照: 2:11)

¹ キリスト教国では、東方の博士たちについてイメージーションを働かせ、3大陸(アジア、アフリカ、ヨーロッパ)から来た「3人の博士たち」と親しんできました。

² 博士(マゴス):「学者、異教の祭司。占星術、夢解釈などを行った。」(BDAG)